

2025年12月30日（火）

老球の細道902号

12月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

高校駅伝、学法石川男子が優勝（会津出身選手活躍）、福島県でも日本一になれる。高校WC、留学生なしの福岡大濠、大阪薫英優勝、留学生なくても日本一に。磐梯ミニ男子県大会優勝、会津でもやれる。「都見たくば 此处までござれ 今に会津が 江戸となる」。

1・テレビ

◆「感動した時点で自分のものになる」〈NHK：世界うた旅：ベトナム編〉：流行性感冒にはかかりやすいが、**流行性感動**にはなかなかかかりにくい。黒柳徹子著『窓際のトットちゃん』で「世に恐るべきものは、目あれど美を知らず、耳あれど楽を聴かず、心あれども真を解せず、感激せざれば、燃えもせずの類である」。日々感動を探して動き、燃えていたい。

2・読書から

◆「用件は便箋1枚に大きな字で書け。初めに結論を言え。理由は3つまでだ。この世に3つにまとめきれない大事はない」〈『田中角栄100の言葉』宝島社〉：田中角栄云々は抜きにして、「3つにまとめる」ことの重要性はバスケの「コーチングポイント」を整理する時に役に立つ。私は時々余計なことをプラスαするために疎まれる。熱意、誠意、創意、室意。

◆「重荷というものは、それを負っているだけの力のある肩にかかるものなのだ」〈ミッチェル『風と共に去りぬ・II』集英社〉：こんなに面白い本だとは思わなかった。米国の歴史と人間の不屈の魂。試練を乗り越え、絶望に立ち向かう時に勇気を与えてくれるだろう。

◆「熱くあれ。熱気は飛躍信仰のもとになるエネルギーだ。価値あるもの、高きところへわれわれを導く力である。自分を越えた領域に押しやる潜在的な力である」〈アルペローニ『戦う勇氣 退く勇氣』草思社〉：コーチも熱くなれ。燃えない焚火を誰を囲もうか。歌手故冠次郎も「炎🔥」で歌う「生きるぞ人生を 燃えろ、燃えろ、燃えろ 炎のように(^.^)」と。

2・新聞から

◆「人に教えるようになって自分の蕎麦も急につながるようになった」〈朝日：折々のことば：フクモリシン〉：バスケットのプレイヤー、コーチ、レフリー共に究極のゴールは他人にスキル、プレイ、原理原則をシンプルに、わかりやすく教えることができるかである。

◆「自分達から崩れない」〈朝日：スポーツ：Jリーグ鹿島鬼木監督〉：9回目の優勝を果たした監督の言い続けた言葉。チームがうまくいかないと必ず悲観的な言葉や監督のやり方に疑問を呈したり、選手から一体感が欠け、自分達から崩れていった。敵は我にあり。

◆「私が他の誰よりも遠くを見ることができるとすれば、背の高い巨人の肩の上に立って、視野を伸ばしているからだ」〈朝日：百年未来への歴史：江崎玲於奈〉：万有引力を提唱したニュートンの言葉である。科学的発見のプロセスは、常に先人の積み重ねの上に、論理的にきちんと整合した形で、革新的な知識が加わっていくものと江崎氏は言う。バスケの戦術、ドリルなどにも応用できる考え方であると思う。